

Volunteer Seminar Journal Vol.14

2019 Spring
ボランティアセミナージャーナル

イベントカレンダー

月	火	水	木	金	土	日
4/1	2	3	4	5	6 11:00~15:30	7 荒浜新歓ツアー
8 13:00~17:00	9	10 16:30~	11 16:00~18:30	12 16:00~18:30	13 地域づくり体験ツアー 福島県浜通り縦断ツアー	14
15 15:00~18:30	16 16:30~	17 16:00~18:30	18 SCRUM国際部 新歓説明会・ ワークショップ	19	20 お花見	21 日帰りボランティア ツアー in 宮城石巻
22	23 16:00~18:30	24 SCRUM国際部 新歓説明会・ ワークショップ	25 18:00~	26	27 陸前高田ボランティアツアー 宮城石巻ボランティアツアー	28
29	30	5/1	2	3	4	5
福島県いわき市ボランティアツアー in GW			福島県いわき市薄磯地区ボランティアツアー			
6 Arahama study tour	7	8	9	10	11	12

ボランティアフェア

東北大学内外のボランティア団体の合同説明会! 「まずは話を聞いてみたい」「いろんな団体と比べ考えたい」というあなたにはもってこい! 予約不要・途中入退場自由です。

時間: 4/6(土): 11:00~15:30、4/8(月): 13:00~17:00、4/11(木)・12(金)・17(水)・23(火): 16:00~18:30、4/15(月): 15:00~18:30

場所: 東北大学附属図書館(4/6,8: 図書館グローバル学習室、4/11,12,15,17,23: 図書館多目的室)

参加団体: アイセック仙台委員会、アスイク、海辺のたからもの、キッズドア、高校生支援団体bridge、国際ボランティア団体As One、震災復興・地域支援サークルReroots、SCRUM、仙台自主夜間中学、たなぼた、チャンスフォー・チルドレン、TSALL東北、TEDIC、東北大学地域復興プロジェクトHARU、反貧困宮城ネットワーク、フェアトレード推進サークルamo、復興応援団、ワカツク、互理いちごっこ

スタッフ説明会+晩さん会

ボランティアツアーやスタディツアーの企画、ボランティアに参加したい学生やボランティアを募集する団体の支援をおこなう「SCRUM(スクラム)」の説明会です。学生スタッフが活動の紹介をし、ボランティアやボランティアコーディネーターの魅力をお伝えします。

時間: 4/10(水)・16(火): 16:30~、4/25(木) 18:00~ 川内北キャンパス厚生会館前集合です。

ボランティアツアー、スタディツアー

(課外・ボランティア活動支援センターが主催・共催のもののみ記載)

東日本大震災の被災地を訪れ、ボランティアや視察を行います。所属・学年問わず、どなたでもご参加いただけます。その他のツアーやイベントはP34,35をご覧ください。すべてのツアー・イベントの詳細や申し込み方法は、下記QRコードより、SCRUMのホームページでご確認ください。



ボランティアへの
新たな一歩を
応援しています!

INDEX

課外・ボランティア活動支援センターについて4

SCRUMについて5

東日本大震災の概要と活動8

 岩手県での活動 10

 宮城県での活動 12

 福島県での活動 14

全国の災害被災地での活動 16

Pickup! 多様なボランティア活動 18

ボランティア団体紹介 20

 震災関係 22

 貧困 25

 国際 26

 教育・学習支援 28

 環境 31

 医療 32

 キャリア・若者 33

イベント・活動紹介 34

イベントカレンダー 36

学生ボランティア支援に関するホームページやSNS

課外・ボランティア活動支援センター

http://www.ihe.tohoku.ac.jp/?page_id=7395

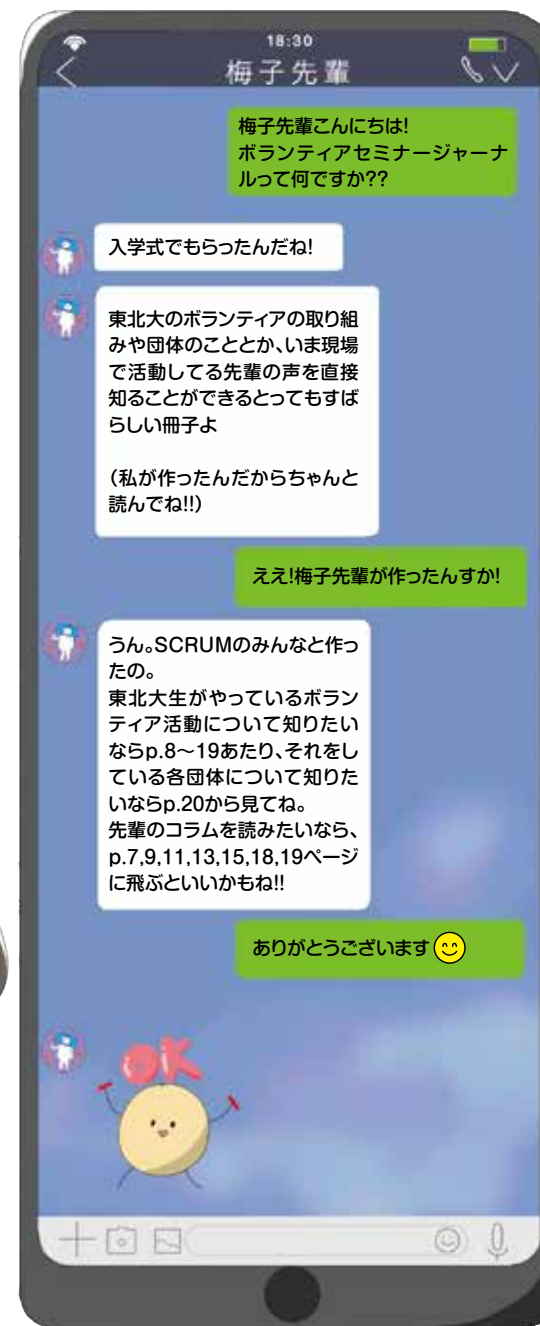
東北大学の学生ボランティア支援

<http://www.tohoku.ac.jp/japanese/studentinfo/volunteer/01/volunteer0101/>

東北大学ボランティア支援学生スタッフSCRUM

<https://scrum-tohoku-univ.jimdo.com/>

 @TOHOKU_VOL  @voltohokuuniv





課外・ボランティア活動支援センターについて

2011年の東日本大震災以降、東北大学でも学生によるボランティア活動が活発になりました。その後、2014年に課外・ボランティア活動支援センターが発足し、課外での様々なジャンルの学生ボランティア活動の総合的支援と、ボランティア活動を取り入れた授業(サービス・ラーニング)の開発・実施を行っています。キャンパスを飛び出して、まちを知り、人と出会うボランティア活動は、様々な現代社会の課題を学ぶきっかけにもなります。課外・ボランティアセンターでは皆さんが実際にフィールドに出て活躍する場を提供していますので、ぜひ積極的に活用してみてください。

ボランティア活動に参加したい人へ

課外・ボランティア活動支援センターでは、皆さんが、ボランティア活動に参加したり被災地の現状を学ぶことができるよう、様々な支援を行っています。自分の関心に合わせて、ぜひ参加してみてください!

- ① ボランティア・フェアに行こう! → p36
- ② ボランティアツアー・スタディツアー等に参加しよう! → p34,35
- ③ 学生ボランティア団体に入ろう! → p20~33
- ④ 学外のボランティア活動に参加しよう! → p20~33
- ⑤ ボランティアの企画運営やコーディネートをしてみよう! → p5~7
- ⑥ ボランティア情報メール配信サービスに登録しよう → 右のQRコードから!



東日本大震災やボランティア関係の授業

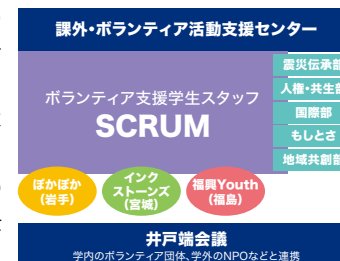
課外・ボランティア活動支援センターでは、被災地等でのボランティア活動やフィールドワークを通して地域社会に貢献しながら学ぶサービス・ラーニング科目を開講ないし開講協力しています。現場に飛び出して一緒に学びましょう!

科目群	授業題目	担当教員	開講時期
基幹科目	社会の構造「東日本大震災からみる現代日本社会」	横関理恵、新任教員	[2S]月4
基礎ゼミ	共生社会に向けたボランティア活動—人権・多様性・エンパワメント	横関理恵	[1S]月5
	留学生と共に被災地を訪れて現状を世界に発信しよう!	渡部留美	[1S]月3
国際教育科目	課題解決型(PBL)演習A 「被災者の生活再建・コミュニティ形成の課題とボランティア活動」	横関理恵、新任教員	[2S]木4
	課題解決型(PBL)演習A 「福島における人権保障と共生の課題—原発事故以降を生きている人々に寄り添う」	横関理恵	[2S]金3

※サービス・ラーニング科目の受講は「東北大学グローバルリーダー育成プログラム(TGL)」のポイントとしても認定されます。詳しくはTGLプログラムのサイト(<https://www.insc.tohoku.ac.jp/japanese/global/about/>)をご覧ください。

東北大学 SCRUMとは?

私たちはボランティアを「したい人」・「している団体」のそれぞれに向けた活動・企画を行う、課外ボランティア活動支援センターのボランティア支援学生スタッフです。また、充実した中間支援を行うべく、私たち自身も東日本大震災の被災三県(岩手・宮城・福島)や熊本地震、西日本豪雨等の被災地でも支援を続ける他、現地で得たものをさらに深めるテーマ別の活動を行うなど、幅広く活動をしています。



ボランティアコーディネート



ボランティアコーディネートとは、ボランティアをした個人としている団体をつなぎ、支援する活動のことを言います。

「したい個人」には様々なボランティア活動を知れる機会を提供し、「している団体」とは合同企画などでの連携や情報共有を図っています。

SCRUMはセンターと協力して、ボランティアフェア(ブース形式の説明会)の運営や団体間交流会の実施、ボランティア情報を掲載する「ボランティアセミナージャーナル」の発行など、様々な形でボランティアの輪の拡大と充実を図っています。



テーマごとの活動 → p6

SCRUMには、場所にこだわらず、特定のテーマについて学習して他の学生に伝え、問題解決のために活動するグループが5つあります。震災伝承部、人権共生部、国際部、もとさ、地域共創部の活動については次ページをご覧ください。

被災地での活動 → p10~15

岩手県、宮城県、福島県での活動はp10~15をご覧ください。

東北以外の被災地での活動 → p16,17

東北大学では、全国で起こった災害の被災地でも救援活動をしています。これまでの活動についてはp16,17ページをご覧ください。

直轄部

活動地を限定せず、それまでのボランティア活動の中で出てきた問題意識に対してテーマを設定し活動する「直轄部」の紹介です。それぞれのグループで勉強会や問題解決に向けた活動をおこなっています。



震災伝承部

震災から8年経つ中で、その記憶を忘れず・忘れさせずに次世代に伝える「伝承」に焦点を当てて活動しています。学習会でのインプットやアウトプットの機会となるスタディーツアーなどを行い、震災の様々な側面を知る入門編としての役割もあわせ持ちます。



▲9月学校防災に関するスタディーツアー

人権共生部

ひとつもでは、活動のテーマを震災に限らず、わたしたちの社会が抱える様々な人権問題について学びを深めています。学習会とフィールドワーク(見学やボランティア活動など)を通して、「共に生きる」ことについてみんなで考えあうための入門的な場です。



▲ジェンダーの勉強会

国際部

留学生を対象に、被災地視察ツアーや震災ワークショップを行っています! 昨年は、南三陸町、福島県、仙台市荒浜地区を視察しました。

一緒に、東日本大震災の経験、事実を世界に発信しましょう! 英語を使いたい方、留学生と仲良くなりたい方、世界に情報発信してみたい方募集!



▲南三陸ツアーにて視察中

もしとさ

もしとさは、SCRUMの活動を通して学んだ東日本大震災の教訓や「二度とこんな思いをしてほしくない」という被災者の声を伝えるために、高知県等の「未災地」で防災に挑戦している部です! 宮城県内でも防災を実践的に学ぶ活動をしています! 一緒に防災を楽しもう!



▲高知県須崎市での視察

地域共創部

私たちは、過疎地域の人と協力連携して学生と住民が対話することで地域づくりを考えようと、2018年より活動を開始しました。現在は石巻市雄勝町波板地区で地区運営費確保のための商品販売支援などを行っています。地域づくりや過疎問題に関心のある方の参加をお待ちしています!



▲「雄勝石」が壊れた防潮堤(波板地区)

SCRUM学生の体験談



文学部4年
山本 賢

私は東北での活動に加え、1年次から約3年間熊本でも活動しました。九州出身の人間として熊本のために何かできないかと思っていた中、東北での「寄り添い」ボランティアの経験を活かして熊本で活動できたことは、私にとって大きな財産となりました。東北での経験・学びを活かす機会が多くあるのもSCRUMの魅力です!

私はSCRUMの渉外担当として活動しています。ボランティアフェア(一般の学生向けの合同説明会)や「井戸端会議(ボランティア団体間の会議)」を通して東北大のボランティア団体同士がつながるきっかけを作っています。

私は話したり文章で伝えたりすることがあまり得意ではありません。そんな私がいるんな団体から十数人の学生が参加する井戸端会議のファシリテーターをしていることは不思議なことだと思います。2年生のはじめは会議の10分前にレジュメをざっと見る程度でしたが、夏くらいから意識が変わりました。会議進行が上手な人をお手本にしたり、中身の濃い会議にするためにレジュメを会議の1時間前から確認するようになりしています。

こうして振り返ってみれば私自身、この1年でいろんな成長があったと思います。



工学部3年
竹井 愛

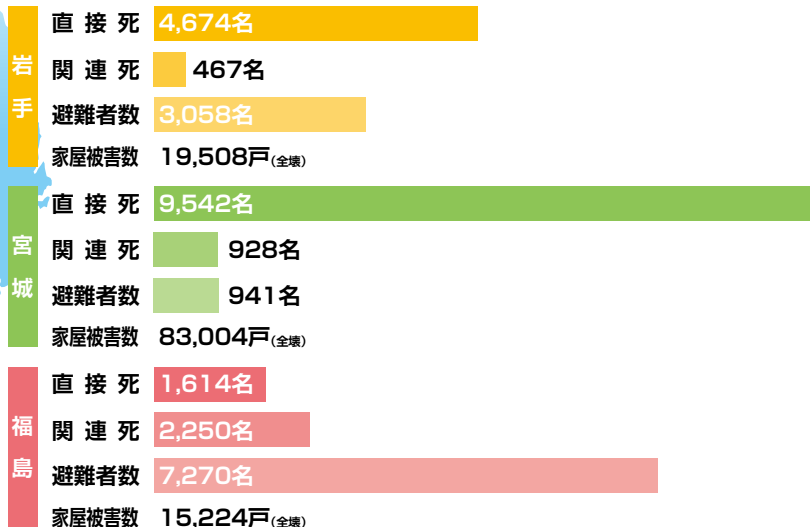


法学部2年
赤田 丞

SCRUMでの活動で一番心に残っているのは、神戸の高校生との交流会です。東日本大震災の後の被災地の様子を紹介すると、高校生たちが大阪北部地震を経験したことを踏まえて考えていたことが印象的でした。災害を身近に自分を感じられるだけでなく、周りの人に発信して一緒に考える機会があるのも、SCRUMならではの魅力だと思います。

東日本大震災について

▶ 被害数(図)



【警察庁】平成 23 年(2011 年)東北地方太平洋沖地震の警察措置と被害状況(平成30年12月10日現在)
 (https://www.npa.go.jp/news/other/earthquake2011/pdf/higajokyo.pdf) 2019年2月27日最終閲覧
 【復興庁】東日本大震災における震災関連死の死者数(平成30年9月30日現在調査結果)
 (http://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat2/sub-cat2-6/20181228_kanrenshi.pdf) 2019年2月27日最終閲覧
 【復興庁】所在都道府県別の避難者数(平成31年1月10日現在)
 (http://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat2/sub-cat2-1/20190129_hinansha.pdf) 2019年2月27日最終閲覧
 ※避難者数は応急仮設住宅等及びそれ以外の賃貸住宅

2011年 3月11日 14時46分

三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の地震が発生し、最大震度7を観測しました。それに伴い起きた広範囲にわたる津波と、福島第一原子力発電所の事故は、8年経過した現在も被災した各地に影響を及ぼし続けています。

震災によって生まれ育った場所に帰ることができなくなったり、長期にわたる避難生活を強いられたり、地域に帰っても人の数や町並みが大きく変わって生活しにくくなっていたり、場所やモノだけでなく大切な人を失った経験を持つ人もたくさんいます。

それでも東日本大震災の被災地は、災害の発生から8年が経過し、少しずつ変化してきています。仮設住宅から公営住宅に転居した方々の移転先でのコミュニティ形成など、震災を機に露出してきた課題は多く、学生ボランティアがお手伝いできることや学ぶべきことがたくさんあります。

東日本大震災と私

東日本大震災に思い入れのあるSCRUMの学生に活動のきっかけや今の思いについて書いてもらいました。



工学部4年
佐藤 美樹

当時中学1年生だった私は岩手県の内陸で揺れを経験しました。服や防寒具を学校で集めて沿岸部に寄付し、数日後テレビで自分が寄付した帽子を被っている子を見て、少しでも役に立てることを実感しました。一方で中学生という立場ではなかなか動けないという無力感も感じました。大学生になりボランティア活動をしている人達がいることを知り、被災地に赴くことを始めました。1人ではできなかったことや巡り会えなかった出会いがたくさんあります。同じ目的を持っている人がいて活動できるということは自分の人生にとって大きな財産の1つです。

発災当時、私は福島県二本松市に住む中学生であった。原発からの距離は約40km。避難は免れたもののホットスポットに指定された地区で、日々得体の知れぬ不安を感じていた。私は何度も甲状腺ガンの1次検査に引っかかった。家族の不安そうな顔が、反応が辛かった。ニュースで、周囲で“フクシマ”への偏見に触れる度に、自分が言われているのではないかと感じ、辛くなり涙が出る時が今でもある。8年経った今だからこそ、声なき声の1つとして公の場に記す。負の面ばかりではなく、新たな人々との出会いもあったことを最後に記しておきたい。



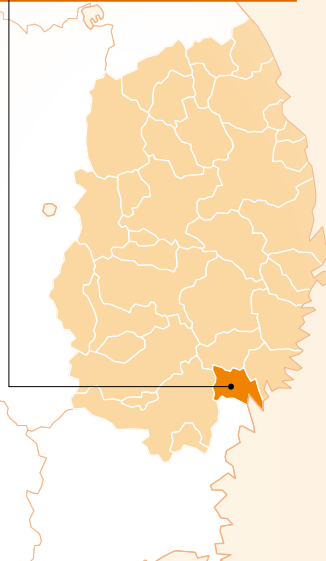
理学部物理学科4年
石川 祐也

岩手県

2012年から陸前高田市で活動を行っている「陸前高田応援サークルぼかぼか」について紹介します。「奇跡の一本松」で有名な陸前高田市では、中心部が13mから17m以上の津波に襲われ、1,757名の方が亡くなり、4,000戸以上の家屋が被災しました。

死者数(震災関連死含む)	5,140名
行方不明者数	1,115名
家屋倒壊数(全壊・半壊)	26,079戸

岩手県総務部総合防災室 平成30年10月31日現在



震災遺構「奇跡の一本松」



新たに苗が植えられた高田松原



建物が増えつつある高田町中心部



毎年8月にある「うごく七夕」祭り

復興の現状

仮設住宅

現在では人の少なくなった仮設住宅は市内の数ヶ所へと集約が進んでいて、2019年度には最終集約地の1ヶ所に減る予定です。

災害公営住宅

市内の災害公営住宅はすでに11団地すべてで895戸が建設完了、そのうちの701戸に入居されています(2018年10月時点)。

街の再建

10メートルものかさ上げ工事や高台造成が行われ、8年経った今も自宅再建が行われています。中心商業施設「アパッセ」の周りには段々と商店が増えてきています。

現地の方の話

震災から8年になり当時のことを振り返ってみると、最初のころは事実を受け入れられなく、明日がどうなるかもわからない状況でした。それでも大学生やボランティアの皆さんに今に至るまでたくさん来てもらい感謝しています。震災はつらい出来事でしたが、震災があったからこそできた今の付き合いがたくさんあります。今住んでいる災害公営住宅では年配の方が多く、住民の孤立を防ぐことが課題と感じています。



柳下咲子さん(陸前高田市高田町)

活動内容

2019年3月までに計65回のツアーを実施し、現在は以下の3本柱を掲げて活動しています。

①仮設住宅での寄り添い活動

公営住宅や自立再建した家に移り住む人が増えている一方、仮設住宅で暮らしている方もまだいます。足湯や手芸をしながら一緒にお話するカフェ活動を行い、そのような方々に寄り添う活動をしています。

②災害公営住宅・集団移転地(高台)でのコミュニティ形成支援

災害公営住宅や高台に住んでいる方々は、震災前に住んでいた地域が様々に異なります。そのためコミュニティの形成が課題になります。そこで私たちがカフェや料理企画などのイベントを開催し、住民さんたちがお互い顔を合わせてお話しできる機会を提供します。

③地域活動の支援

震災後参加者が少なくなった、陸前高田市の伝統行事「うごく七夕」や「虎舞」への参加、NPO法人パクトが実施する子ども支援「みちくさルーム」の手伝いなどを通して地域の活動を支援します。

メンバーの声

もともと8年前の震災を知りたいという気持ちがあり、ぼかぼかのツアーに参加しました。不安もあったけど、住民さんから予想以上に歓迎されて、震災のことや高田の暮らしなどいろいろなお話を聞きました。そして、また高田に来たいと感じ、ぼかぼかに入りました。ツアーごとに新しい出会いや発見があって、楽しいです!



理学部2年
砂山 風磨



工学部3年
竹井 愛

2年間通い続けるうちに、徐々に陸前高田という地域が分かるようになり、愛着も生まれました。毎回の派遣に大小さまざまな思い出がありますが、その中で一つ、印象に残ったものを紹介します。ある公営住宅で手芸ボランティアをした後、約2か月後に市内のあるご飯屋さんに行った時のことでした。その公営住宅で活動に来ていた住民さんが働いていたのです。その方は、私たちが来ているということが分かると、「今度はいつ来るの?楽しみにしてるよ!」と笑顔で声をかけてくれました。ぼかぼかで活動していると、このように自分たちボランティアが必要とされているな、と感じる出来事がたくさんあり、とてもやりがいを感じます。また活動を通して、子どもたちやお年寄りの方々、他大学の学生ボランティア等様々な人たちとふれあうことで人間的に成長している気がします。

ツアー参加者の声

自分は被災した経験がなくどこか震災を他人事に捉えていたが、被災者の方々との交流を通して震災を身近に感じ、常に防災意識を持つことが大事だとわかった。



初めてサロン活動や手芸を体験して、僕たちでも被災された人々の力になれることがあるのだなと実感した。若い人と話すだけで、エネルギーをもらえるとってもらった時は本当にうれしかった。

たくさんの方が留学生が来たことに驚いて喜んでくれました。(オランダからの留学生)

宮城県

死者数(震災関連死含む)	10,565名
行方不明者数	1,221名
家屋倒壊数(全壊・半壊)	238,134戸

※1
2018年12月31日現在

東北大学では震災直後より宮城県での活動を継続してきました。その中でも石巻市の仮設住宅や公営住宅でお茶会などのコミュニティ支援活動、被災地でのスタディツアーなどを主に行っている「東北大学インクストーンズ」の取り組みを中心にお伝えします。

復興の現状(石巻)

石巻市は宮城県の中でも最大の被害を受けました(直接死・関連死計3,552名:宮城県報告※2)。現在は復興公営住宅など、仮設住宅を出た後の移転先の整備のほとんどが完了していますが、いまだ仮設住宅に居住する住民もいます(石巻市では2018年末時点で229名がプレハブ住宅に入居中。2012年8月時点では16,769名:宮城県報告※3)。復興公営住宅では、震災前とも仮設住宅時代とも異なるコミュニティを形成していくことが課題となっており、まだまだボランティアによる支援の余地があります。

石巻市は2005年に大規模に合併した自治体です。そのため、半島部に居住する住民からは他の自治体や市内の他地域と自らの地域を比較して、その「格差」ともいべき状況への不満の声を聞くこともあります。

※1:2宮城県ホームページ「復旧・復興の進捗状況」
-東日本大震災の地震被害等状況及び避難状況について より
<http://www.pref.miyagi.jp/site/ej-earthquake/km-higaizyoukyou.html>
※3宮城県ホームページ「復旧・復興の進捗状況」-応急仮設住宅の入居状況より
<http://www.pref.miyagi.jp/site/ej-earthquake/nyukyo-jokyo.html>
(ウェブサイトはすべて2019年2月7日最終閲覧)



津波で被災した荒浜小学校(震災遺構・仙台市)の見学



7月1日 流しそうめんて 住民の方と交流(石巻市の災害公営住宅)



4月15日 大川伝承の会の方から 大川小学校について学ぶ



石巻市雄勝町波板地区・ 石板で装飾された防潮堤の上を歩く

現地の方の話

震災があった時は外出中でした。避難所に行き、大川小学校の第一報を聞きました。数日間家族や地区の人とは、合流も電話もできない状況でした。情報収集に奔走し5日経ってようやく役所と連絡をとることができ、被害状況がわかりはじめました。「みんな言葉になんなかったねえ…ただ生きてた」。波板地区は震災で21世帯から10世帯にまで減りましたが、今後も地区が存続するよう、特産品の雄勝石やハワイに漂着して帰還した「第二勝丸」という船をカギに、「波板らしい」まちづくりをしています。(石巻市雄勝町波板地区・青木甚一郎さん)



活動内容

月に一回、宮城県石巻市で活動をしています。仮設住宅や復興公営住宅への訪問・震災遺構や情報館などの視察・震災に繋がりがあの方からお話を伺うことなどを行っています。

公営住宅などでは住民の方とお茶会などを通して、被災者の言葉に耳を傾ける傾聴活動をしています。またその際に、住民の方とコミュニケーションをとりやすくするため、塗り絵やお菓子作りなどをするもあります。インクストーンズに所属する学生は次のように話していました。「門脇東地区災害公営住宅で聞いたお話が印象に残っています。空き部屋が多く、もうすぐ被災していない人の入居が始まるということでした。時間がたって、被災地を取り巻く環境も変化していくのだと実感しました」(理学部物理系2年・千葉隆司)。



▲復興公営住宅の皆さんと!

メンバーの声

宮城での活動の特徴は?

東北大学が位置し、実際に今自分の住んでいる宮城県で、震災当時何が起きたかを知れることが大きな特徴です。車で1時間程走ったところで、大きな津波が押し寄せ、たくさんの人が亡くなったということを考えると、とても他人事ではられません。

活動中にやりがいを感じたことは?

現地の方々と交流することで、貴重な話やタメになる話、面白い話などいろいろなお話が聞けます。活動の準備はとても大変ですが、相手の喜んでる顔を見るとこちらも嬉しくなって、お互いが幸せになれるところがボランティアのいいところだと思います!

新入生の皆さんへ

インクストーンズでは大学生でしか経験できないようなことがたくさんあるし、何より気の合う仲間がたくさんできます!せっかくの大学生活、僕たちと素敵なボランティア活動にチャレンジしてみませんか?



理学部化学科3年
大澤 来稀



▲石巻市の海!とっても綺麗で気持ちいいです~!

福島県

東北大学では、2013年より福島県のいわき市や富岡町を中心にスタディツアーやボランティア活動を行っています。ここでは、県内の津波・原発事故の被害と復興の現状、ボランティアサークル「福興youth」の活動を紹介します。

死者数(震災関連死含む)	4,089名
行方不明者数	2名
家屋倒壊数(全壊・半壊)	96,027戸

福島県災害対策本部 2019年1月9日現在

浜通りの概況

平成29年4月1日現在(経済産業省発表)



避難指示が解除された富岡町。遠くに福島第二原発が見える



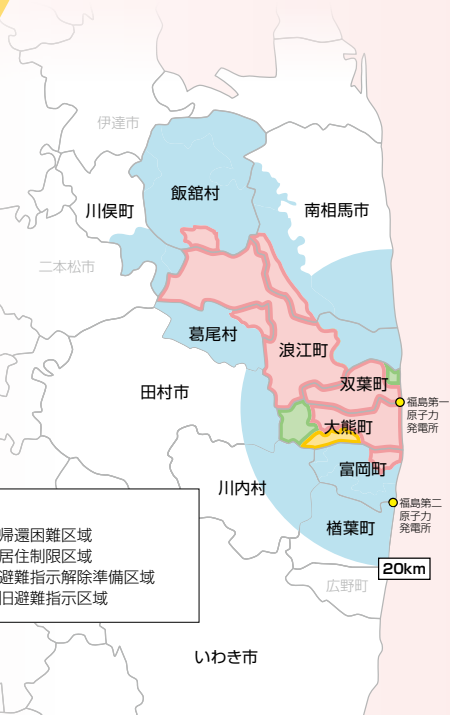
富岡町夜ノ森地区。帰還困難区域はバリケードで立ち入れない。



いわき市永崎団地・下神白団地の秋祭り交流会の様子。



楢葉町で新たに始まった田んぼ。収穫が近い。



凡例

帰還困難区域	居住制限区域
避難指示解除準備区域	旧避難指示区域

復興の現状

福島県は、地震、津波、原発事故の複合災害を被りました。2017年4月の段階で、富岡町や浪江町等は原発事故に伴う避難指示が一部地域で解除されましたが、「帰還困難区域」もまだ存在し、県内外への避難者は4万人を越えます。今年4月には全町避難が続く大熊町の一部で避難指示の解除を目指す動きもあります。また、県営の復興住宅の整備が進む一方で、未だ仮設住宅に入居する方も多く、継続した支援が求められています。

現地の方の話

震災の時はいわき市小名浜の家において、高台のお寺へ避難しました。犬を飼っていたので車でしばらく過ごし、ペット可の借上げ住宅に入り、2015年に永崎団地に来ました。皆さんには、地震があったら「とにかく高い所へ逃げろ」と伝えたい。福興youthの学生が来てくれるのが本当に楽しみです。

(左 いわき市営永崎団地自治会長 藁谷鐵雄さん)

浪江町請戸地区の出身で、津波の被害に遭い、翌日には原発事故のため避難することになりました。最初は情報がなく、TVで避難指示が出ていることを知りました。原発事故さえなければ、次の日から復興に向けて動き出せたのです。今は永崎団地のお隣の下神白団地に住んでいます。

(右 福島県営下神白団地会計 佐山弘明さん)



活動内容

主に福島県いわき市、富岡町で活動している団体です。活動内容としては、住民間のコミュニティ形成を図ることを目的に、お茶会や手芸等を主催したり、伝統行事のお手伝いに参加したりしています。

福興youthの活動方針は以下の3つです。

住民の方の架け橋になり、コミュニティ形成を図る 変化していく福島に寄り添い、支援が必要な人の受け皿となる

●主に津波被災者が住む災害公営住宅「市営永崎団地」、隣接する原発避難者向け復興公営住宅「県営下神白団地」への定期的な訪問を活動の中心に据え、コミュニティ形成支援に取り組んでいます。具体的な活動としては、お茶会や手芸等を主催し、住民間・学生間の交流を行っています。夏には風鈴作りを企画したり、冬にはクリスマス会を企画したりしました。また、ホットケーキ作りなど子供向けの企画も行っています。

●いわき市薄磯地区で毎年行われる伝統行事「例大祭」への参加を通して、地域の伝統行事のお手伝いに参加しています。また、薄磯地区では学童への参加も行っています。

福島今に触れ続け、発信していく団体となる

福島の「いま」のお話を現地の視察を交えながら伺うスタディツアーの企画運営を行っています。昨年は福興youthのメンバーのみならず、多くの東北大生が富岡町など、浜通りの市町村に足を運びました。



▲クリスマス会の様子

メンバーの声

僕がボランティアとして福島に大きく関わったのは永崎団地・下神白団地合同の秋祭りのお手伝いが最初でした。この2つの団地は、それぞれ津波で被災された方、原発事故で避難された方、という避難の理由が異なる方々が入居されていて、そんな複雑な事情があるところでうまく関われるか不安でした。しかし実際活動してみると、不安を感じていたことを忘れ、またここに来たい、と思うほど楽しく活動していました。



理学部物理系2年 浦山 廉



工学部化学・バイオ工学科3年 平野 杜萌

私は5月に参加した薄磯地区の例大祭のボランティアが最も印象に残っています。薄磯地区は福島県いわき市の沿岸部に位置しています。震災後若者が減り、薄磯地区の伝統行事である例大祭の担い手の高齢化が問題となっています。現地に赴き、実際に例大祭に参加することで私たちも元気をもらいました！薄磯地区の人の力強さや温かさを感じることができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。少しでもボランティアに興味があったら、ぜひ気軽に参加してみてください！



緊急災害ボランティア派遣

東北大学では、東日本大震災での救援活動やボランティア経験を生かして、日本各地で災害が発生した際に情報収集・学生の派遣をし、救援活動をするとともに現地に東日本大震災の経験を伝えています。現地の大学や団体と協力し、数年にわたり活動を継続している地域もあります。

2018年 北海道胆振東部地震(むかわ町)

2016年 台風10号(岩手県岩泉町)

2017年 (7月)豪雨(秋田県大仙市)

2015年 平成27年関東・東北豪雨(宮城県大崎市)



▲9月23日むかわ町の避難所での足湯講習



▼7月17日高槻市災害ボランティアセンターでの足湯



2018年 大阪北部地震(高槻市)

2018年 西日本豪雨災害(東広島市・呉市・坂町)

2016年 熊本地震(益城町・熊本市・御船町)

熊本地震被災地での活動

SCRUMでは、2016年5月から12回熊本地震被災地への支援活動を行っています。

震災から時間がたった東北で活動しているからこそ熊本でできること。その一環として、直接支援だけでなく、熊本大や熊本県立大の学生にノウハウ移転を行う中間支援を行っています。そこで出会った仲間は大きな財産になっています。ま



▲仮設住宅での手芸の様子



▲現地大学との意見交換会

た、熊本で震災直後を見た経験を東北での活動に還元し、風化が進む両被災地で、いち早く復興が進むように活動を行っています。

西日本豪雨(平成30年7月豪雨)被災地での活動(広島)

西日本豪雨では、2018年の6月下旬～7月上旬の期間に降り続いた記録的な豪雨により、西日本の各地で河川の氾濫や土砂災害が多発しました。

この災害では東北支援で接点があった広島大学の学生と連携



▲広島県坂町内の避難所での足湯



▲被災された農家の農地ボランティアの様子

を図り、ともに支援を考えるパートナーとしての役割を担いました。被災直後の避難所での足湯と仮設住宅後の足湯との意味の違いも感じましたし、“よそ者”が地域に入る際の独特のやりにくさも学びました。

東北から広島という流れの中で、東北での活動を見直す機会にもなりました。

Pickup!
多様な
ボランティア
活動

東北大学生は、災害ボランティア以外にも
様々なジャンルの活動に参加しています。
ここでは国際系と教育・学習支援系の団体のうち
As OneとTEDICで活動する学生の体験談を紹介します。

国際系ボランティア活動

ボランティア活動の中には、国境を越えて世界に飛び出すワークキャンプや、日本国内でも様々な国籍・民族の人々と関わったり、海外支援を行う活動があり、グローバルな視野で世界の課題と向き合うことができます。東北大学生の中でもこうした活動を行う団体が増えています(詳しくはp.26~27参照)。今回は、Habitat for Humanityという国際NGOの支部として開発途上国での建築ボランティアや東日本大震災の被災地で活動する国際ボランティア団体As Oneで活動する菊地寿茂さんを紹介합니다。



農学部3年
菊地 寿茂

ボランティアを始めたきっかけ

私は宮城県出身で東日本大震災を経験し、津波の被害を受けた方々に何かできないかとずっと考えていました。また、大学に入ったら海外に行ってみたくとも思っていました。その2つを実現できると思い、AsOneに入ることを決めました。

活動の魅力

長期休暇に行う海外で家を建てるボランティアは実際に発展途上国に行くことができます。実際にボランティアをする場所は、旅行では行くことができないような場所で、現地の人の生活や日本との格差を目の当たりにします。ここで感じたこと、学んだことは何にも変えられない経験になるのが魅力です。

そして何よりメンバー間の仲が良く、とても居心地がいいんです!!

新入生に一言

大学生でしかできないことがAsOneにはあります。私たちと一緒に今しかできないことを楽しみましょう!!



▲スリランカでの建築ボランティアの様子

教育・学習支援系ボランティア活動

東北大学生の多くがその経験と知識を生かして取り組んでいるのが、教育・学習支援系のボランティア活動です(詳しくはp.28~30参照)。この中には、子どもの居場所・遊び場づくりや貧困家庭の中高生の学習支援、成人の基礎教育支援など、様々な活動が含まれています。今回は、石巻市で貧困家庭の子どもの居場所づくりや学習支援に取り組むNPO法人TEDICで活動する齋藤恵里佳さんを紹介합니다。



医学部保健学科
検査技術科学専攻2年
齋藤 恵里佳

ボランティアを始めたきっかけ

私自身、誰かの役に立つ活動をやりたくて東北大学主催のプログラムに参加し、その活動内でTEDICと出会いました。現場に入って活動する中で、様々な悩みを抱えている子どもたちの笑顔あふれる姿を見て、私もこのような形で子どもたちの支えになりたいと思い、続けよう決めました。

活動の魅力

何より子どもの成長を間近で見ることができます!勉強や人間関係など上手くいかないことがあったとき、子どもと一緒に考えて解決策を探していくことで子どもの考えが変化し、少しずつ子ども自身の「できる」が増えていくことがとても嬉しいです。また、様々なバックグラウンドを持ったチューターや職員さんとの出会い、交流できることも一つの魅力です!

新入生に一言

「大学に入って新しいことを始めたい」などどんな動機でも構いません。少しでも興味があることはボランティアに関わらず挑戦してみてください!

皆さんの大学生活が充実したものになることを願っています!



▲現場後の反省会の様子



ボランティア団体の紹介

ここでは、東北大学内のボランティア団体や東北大学性も参加する学外のNPO法人等を紹介
します。4月のボランティアフェアでは、興味のある団体の説明が詳しく聞けますよ！
★連絡先等は各ページをご確認ください！

01	東北大学 インクストーンズ	震災 関係	学内	22p
02	たなぼた	震災 関係	学内	22p
03	東北大学地域復興プロジェクト HARU	震災 関係	学内	23p
04	東北大学 福興youth	震災 関係	学内	23p
05	東北大学陸前高田応援サークル ほかほか	震災 関係	学内	24p
06	震災復興・地域支援サークル ReRoots	震災 関係	学内	24p
07	一般社団法人 ピースポートセンターいしのまき	震災 関係	学外	25p
08	一般社団法人 復興応援団	震災 関係	学外	25p
09	反貧困みやぎネットワーク	貧困	学外	25p
10	国際ボランティア団体 AsOne	国際	学内	26p
11	フェアトレード推進サークル amo	国際	学内	26p
12	NPO法人 CFF東北	国際	学外	27p

13	NPO法人 good!	国際	学外	27p
14	NPO法人 NICE	国際	学外	27p
15	NPO法人 アスイク	教育・ 学習支援	学外	28p
16	NPO法人 キッズドア	教育・ 学習支援	学外	28p
17	公益社団法人 チャンスフォーチルドレン	教育・ 学習支援	学外	29p
18	特定非営利活動法人 TEDIC	教育・ 学習支援	学外	29p
19	NPO法人 亘理いちごっこ	教育・ 学習支援	学外	29p
20	NPO法人アイカス国際都市 仙台を支える市民の会 さっと日本語クラブ	教育・ 学習支援	学外	30p
21	仙台自主夜間中学	教育・ 学習支援	学外	30p
22	あしなが学生募金事務局宮城ブロック	教育・ 学習支援	学外	30p
23	TSALL東北	環境	学外	31p
24	海辺のたからもの	環境	学内	31p
25	宮城県青年赤十字奉仕団	医療・ 福祉	学外	32p
26	高校生支援団体 bridge	キャリア ・若者	学内	33p
27	一般社団法人 ワカツク	キャリア ・若者	学外	33p

01 東北大学 インクストーンズ



震災関係 学内



インクストーンズは、宮城県石巻市を中心に活動する団体です。一般学生を交えたボランティアツアーやメンバーのみでの活動などを月に一度行っています。足湯や手芸を通じた、仮設住宅等でのコミュニティ形成支援と限界集落での地域おこしのお手伝いの二つの活動を主に運営しています。誰かに笑顔をお届けたいあなた、気軽にご連絡ください！

初めてのボランティア活動で仮設住宅の住民さんとお茶会に参加しました。住民さんから震災時や現在の暮らしについてのお話を聴くのはとても貴重な経験でした。会話するという些細なことも大きな支援に繋がるということを実感しました。

石塚奈緒 (法学部2年)



代表: 石塚 奈緒 (法学部2年) | Email: tohoku.inkstones@gmail.com

02 たなぼた



震災関係 学内



たなぼたは、ぼたちゃんというゆるキャラがいる震災復興支援系の団体です！宮城県内の仙台市大和町・あすと長町、石巻市の復興公営住宅で主に活動しています。足湯、折り紙や工作などの手芸、簡単な料理、イベントへの参加などを行っています。楽しめる活動がたくさんあり、自分の都合に合わせて参加できます。一緒にぼたぼた活動しましょう♪

ボランティアを始めようと思ったきっかけは東日本大震災についての知識を得たいと思ったからです。実際に活動してみると震災の知識だけではなくボランティア先の住民さんたちの優しさに触れ逆に元気をもらっています。自分の居場所があると実感できるサークルだと思います。

宇津敬祐 (教育学部2年)



代表: 瀬下 彩香 (法学部2年) | Email: tanabotatohoku6@gmail.com

03 東北大学地域復興プロジェクトHARU



震災関係 学内

HARUは、東日本大震災からの復興支援・地域再生を目的として2011年3月に結成された団体です。震災直後には物資支援や瓦礫撤去などの現地支援、ボランティア情報の提供を行い、2011年9月よりさまざまなプロジェクトを立ち上げ、いちご農家の



支援や仮設住宅における学習支援などに取り組んできました。被災地内外における多様なニーズに対応するため、2017年1月に活動拠点を軸とした「石巻部門」と「山元部門」という部門制にし、現在まで宮城県のこの2つの地域で定期的な活動を継続しているほか、他大学・団体との交流やツアー等を企画しています。



代表: 藤城 莉子 (法学部3年) | Email: kktenisk@ezweb.ne.jp TEL: 080-6762-5321

04 東北大学 福興youth



震災関係 学内

主に福島県いわき市、富岡町で活動しています。「住民の方の架け橋になり、コミュニティ形成を図る」「変化していく福島に寄り添い、支援が必要な人の受け皿となる」ことを活動理念に掲げ、お茶会や足湯、手芸を介した傾聴を軸とする心のケアや、地域の



伝統行事の手伝いをするボランティアツアーの企画運営をしています。また、「福島の今に触れ続け、発信していく団体となる」ことを目指し、福島の「いま」のお話を現地の視察を交えながら何うスタディツアーの企画運営も行っています。興味のある方、ぜひお待ちしております！



代表: 赤田 丞 (法学部2年) | Email: fukkoyouth.tohoku.univ@gmail.com

05 東北大学陸前高田応援サークル ぽかぽか



震災関係 学内

私たちは岩手県陸前高田市で活動している団体です。一般の学生を交えたボランティアツアーを月に1回程度実施しています。仮設住宅や災害公営住宅での足湯・手芸カフェや、たこ焼きパーティーなどの料理企画を主に行います。また、地域の要望に応じて



伝統行事の「うごく七夕」や「虎舞」のお手伝いや、小学生を集めて宿題を一緒にやったりお楽しみ会を実施したりします。団体名の通り、誰でもウェルカムな楽しい雰囲気です。活動しているので、ボランティアに興味がある方や被災地について知りたい方はぜひツアーに参加してみてください!



代表:高嶋 優佑(工学部2年) | Email:tohoku.poca2@gmail.com

06 震災復興・地域支援サークル ReRoots



震災関係 学内

ReRootsは東日本大震災で被災した仙台市若林区で復興・地域おこしの活動を行う団体です。若林区は古くから農業が盛んで、農村コミュニティが発展してきました。しかし、それらは震災を機に衰退してしまいました。その中でも諦めない被災農家を応援し、地域の文化や人々のつながりを守るため、農家さんや学生



自らが畑で作った野菜を販売したり、地域住民とのイベント企画や稲わらを使ったアートの制作をしたりしています。被災地の復興や地域おこしを一緒に考えてみませんか?HPでも私たちの活動の様子をぜひご覧になってみて下さい!



代表:北河 凌(工学部2年) | Email:reroots311@yahoo.co.jp TEL:022-762-8211

07 一般社団法人ピースポートセンターいしのまき



震災関係 学外

「イマココいしのまき」では石巻の漁師と他地域の方を繋ぎ個人個人の深い繋がりを育むことを目的にしています。1週間漁村に住む漁師のお宅にホームステイしながら養殖漁業のお手伝いをするこのプロジェクトでは、仕事のお手伝いをするだけでなく地域の暮らしに溶け込みながら習慣、文化を肌で感じることが出来ます。知っているけどよく知らない漁師の世界、雄大な自然の中に住む人々から溢れ出る魅力に触れながら、浜の豊かな暮らしを体験してみませんか?



代表:山元 崇央 | Email:imacoco@pbi.or.jp TEL:0225-25-5602

08 一般社団法人 復興応援団



震災関係 学外

南三陸と多賀城市で、地元の人を中心となる復興に向けて活動しています。その地を長期的に支えるファンやコミュニティを創出し、復興へ大きなうねりを起こそうとしています。南三陸では地元の担い手を応援するツーリズムプロジェクト。多賀城では毎月広報紙を作成・配布し、コミュニティ作りのお手伝いをしています。



代表:佐野 哲史 | Email:dangakusei@gmail.com TEL:0226-25-9897

09 反貧困みやぎネットワーク



貧困 学外

反貧困みやぎネットワークは貧困問題を社会的に解決するために活動しています。労働・生活相談や炊き出しの現場での活動や、貧困問題の実態調査活動などを通じて貧困の実態を知るとともに、社会的な発信、政策提言を行います。この他にも貧困問題や支援に必要な法律の勉強会など様々な活動があります。より具体的にはHPをご覧ください。



代表:菊池 修(弁護士) | Email:hhmiyaginet@gmail.com TEL:022-797-2696

10 国際ボランティア団体 As One



国際 学内

AsOneは「海外支援」と「東北支援」の両方に取り組むことのできるボランティア団体です。海外支援では、長期休暇を利用して発展途上国に赴き、約2週間で家を建てるボランティアをします。家を建てるボランティアなんて、大学生でしかできない経験ですよ！東北支援では、石巻市や女川町を中心に植林活動や、子供たち向けのイベントのお手伝いをしています。また、被災地の現状を学ぶスタツアも行なっています。AsOneはメンバーの仲がととてもよく、家族のような居場所ですので、興味のある方はどなたでもWelcomeですよ！



代表: 菊地 寿茂 (農学部3年) | Email: tohoku_asone2013@gmail.com

11 フェアトレード推進サークル amo



国際 学内

私たちamo(アモ)はフェアトレード活動の普及を推進する活動をしています。具体的には、フェアトレードの認知度調査や、大学生協や学園祭でフェアトレード商品の販売を行っています。また、地域の方に協力をいただき、仙台市民の方々に向けてフェアトレードの紹介をするイベントを開催しました。日本のフェアトレードの認知度は他の先進国と比べてもまだまだ低いため、今後もフェアトレードが当たり前である社会の実現を目指して努力していきたいと思ひます。



代表: 村川 美希 (経済学部3年) | Email: amo.fairtrade.tohoku@gmail.com

12 NPO法人 CFF東北



国際 学外

NPO法人CFFは世界の厳しい立場に置かれた「子どもたちの支援」と未来の社会を担う「青少年の育成」に取り組む団体です。現在、フィリピン・マレーシア・ミャンマーにて活動中。過去の活動の参加者は4000人以上！「世界の子どもたちのために何かしたい」ボランティアをしてみたい」その気持ちを行動に移してませんか？



代表: 田代 美智華 | Email: info@cffjapan.org TEL: 03-5960-4602

13 NPO法人 good!



国際 学外

スリランカやタイの村でホームステイしながら、井戸掘りや道路づくり等のワークを行います。村人との深い交流も魅力で、名前も知らなかった村にもう一つの大切な家族ができます。スタッフ同行のため、初海外、初ボランティア、一人参加や英語が苦手な方でも安心して参加できます。



代表: 磯田 浩司 | Email: info@good.or.jp TEL: 03-3973-1631

14 NPO法人 NICE



国際 学外

NICEは国際ワークキャンプという合宿型ボランティア活動を国内外で主催し、海外に日本人を派遣しています。国連CCIVSに加盟し世界90ヶ国3,000ヶ所のプログラムを紹介しています。

こんな人にオススメです！

- 2~3週間、海外で外国人と共にor日本の山村地域でボランティアしたい人
- 1ヶ月以上、世界の地域に入ってじっくり活動したい人



代表: 開澤 真一郎 | Email: info@nice1.gr.jp TEL: 03-3358-7140

15 NPO法人 アスイク

教育・学習支援 学外



生活保護などを受給する、困窮世帯の小学生～高校生年代を対象に、放課後の時間を利用し無料の学習支援を行っています。

勉強以外の「まなび」の機会の一つとして二か月に一度の頻度で課外プログラムも開催しております。

在籍するボランティアの年齢や所属は様々なので、多様な視点から子ども達の支援を行うことができます。



代表:大橋 雄介 | Email:asuka_takeyama@asuiku.org TEL:070-5328-4586

16 NPO法人 キッズドア

教育・学習支援 学外



経済的に苦しい家庭、ひとり親家庭、被災地で暮らす子どもたちに無料の学習支援を提供しています。学習会や学習支援と食事を提供する居場所等で、一人ひとりの子どもにあわせた個別指導や受験対策を行い、子どもたちの学力とソーシャルスキルを上げることで子どもたちが夢や希望を持てるよう支援しています。



教育支援事業部東北チーム 事業部長: 對馬 良美 | Email:tohoku@kidsdoor.net TEL:022-354-1157



17 公益社団法人 チャンスフォーチルドレン

教育・学習支援 学外



東北を中心に、経済的な困難を抱える全国の子どもたちに、塾や習い事で利用できるクーポンを提供しています。大学生ボランティアは、勉強や日常生活について等様々な話をする電話面談や、交流イベント等を通じて、夢に向かって頑張る子どもたちのお兄さん・お姉さんとして伴走する大切な存在です。ぜひ力を貸してください。



代表理事:今井 悠介 | Email:brosis@cfc.or.jp TEL:022-265-3461

18 特定非営利活動法人 TEDIC

教育・学習支援 学外



石巻市で子ども・若者を支援している団体です。いじめ、不登校、困難な家庭状況など様々な背景を持つ子どもたちに学習・居場所支援を行っています。一緒に勉強したり、ご飯を食べたり、お話をし「子どもにとっての、この場をどうする」のかを日々考えながら活動に取り組んでいます。石巻で私たちと一緒に活動しませんか?



代表理事:門馬 優 | Email:office@npo-tedic.net TEL:0225-25-5826

19 NPO法人 亘理いちごっこ

教育・学習支援 学外



主に亘理町内にて、地域サロンや子どもたちの居場所づくりなどの活動を行っています。2018年からは小学生から高校生までの子どもたちを対象に、学校の宿題をしたり、一緒に遊んだりといった居場所「寺子屋パーク」を週2回、開催しています。元気一杯の子どもたちのパワーをもらいながら、一緒に楽しく活動しませんか?



代表理事:馬場 照子 | Email:info@ichigokko.org TEL:0223-35-7727

20 NPO法人アイカス国際都市仙台を支える市民の会 さっと日本語クラブ

教育・学習支援 学外

「さっと日本語クラブ」は、外国に由来を持つ小・中学生のための日本語講座です。来日したばかりの子や、言葉の問題で学校の勉強が難しい子に日本語を教えます。活動は青葉区中央市民センターで土曜日の午前です。子供達の生活がより充実するよう、スタッフ一同奮闘中です。興味のある方はぜひ一度見学にいらしてください。



代表: 河田 文子 | Email: k_fumimi@icloud.com TEL: 090-6253-9684

21 仙台自主夜間中学

教育・学習支援 学外



仙台自主夜間中学では、病気や家庭の事情で小・中学校に満足に通えなかった方や不登校・ひきこもりなどで学校に通えなかった方などが学んでいます。2014年11月に開講し、現在は水曜日の昼・夜、金曜日の夜に仙台市内で教室を開き、10代~90代まで約60名が楽しく学んでいます。

現在、東北大学3年生の4名が活動し、学習者に寄り添っています。後継の学生ボランティアを大募集中です。



代表: 中澤 八榮 | Email: sendai.yakan@gmail.com TEL: 080-9016-6322

22 あしなが学生募金事務局宮城ブロック

教育・学習支援 学外



私たちは、遺児の高等教育支援のために、毎年春と秋に街頭募金を行なっています。いただいたご寄付は、あしなが育英会に寄付し、日本国内やアフリカの遺児のための奨学金として使われます。勉強したいを支えたい。そんな思いで、一人でも多くの遺児が安心して進学できるよう、活動をしています!ご連絡お待ちしております!



東北大学担当: 渡邊 勇 | Email: maruanomiyagi@gmail.com TEL: 022-797-2418 (東北担当職員 中村)

23 TSALL東北

環境 学外



TSALL東北は、植樹・育樹活動をはじめ、様々な環境保全活動に取り組んでいます。月に1、2回程度、環境保全のボランティアに参加する傍ら、ミーティングでは環境問題についての勉強会も行っています。あなた自身の手で、かけがえない自然と一緒に守っていきませんか? 皆様のご参加をお待ちしています!



代表: 関塚 亮 (法学部2年) | Email: tsall.tohoku@gmail.com TEL: 080-7002-3824

24 海辺のたからもの

環境 学内



海辺のプラスチックごみから、綺麗なアクセサリーをつくり販売しています。その収益で、復興途上の東北各地をまわり、海岸ゴミや自然の調査・啓発活動を行います。仙台市内のイベントに参加して子どもたちと楽しくアクセサリーをつくらったり、地域住民や、

全国のNPO、学生団体をつないで次の環境事業を立ち上げたりと、活動の頻度や内容も自分で決められます。生き物やごみ問題、ハンドメイドや地域のなりわいづくりとたくさんのテーマの中でみなさんの興味や得意なことをいかせますか? まずはアクセサリー、一緒につくってみませんか?



代表: 畠山 紳悟 (工学部2年) | Email: umibenotakaramono@gmail.com TEL: 080-1827-1538

25 宮城県青年赤十字奉仕団



医療・福祉 学外

私たち宮城県青年赤十字奉仕団は、日本赤十字社の指導の下、ボランティアをしています。活動は献血推進、高齢者施設や乳児院への訪問です。献血推進活動では、夏と冬に商業施設に献血バスが来る際に、学生主体で呼びかけをしたり、月に1度市内の献血ルームでも呼びかけをしています。ぜひ私たちと一緒に活動しましょう！



献血リーダー：石田 美空 (医学部2年) | Email:mygsihu@gmail.com



どの団体に参加するか迷ってる…
興味を持った団体の話をもっと聞いてみたい！
そんな時は、

『ボランティアフェア』

ここで紹介されている各団体が一堂に集まります。
ボランティアフェアに参加して、詳しくお話を聞いてみましょう！

日程は36Pを参照

26 高校生支援団体 bridge



キャリア・若者 学内

私たちbridgeは、「高校生の"架け橋"に」という理念のもと、大学生のリアルな姿に触れることで多様な人生観を知り、将来を見つめ直す手がかりを得て欲しいと考えています。高校生1人1人がより一層輝ける未来、そんな未来への"架け橋"となることを目指して

私たちは活動

しています。

主な活動として、

高校生向けの座談会やワークショップの企画運営を行う活動、新しく

Webメディアの運営を通じた多様な大学生像を届ける活動、LINE@等を通じた進路相談活動などをしてい

ます。多彩なメンバーと共に活動してみませんか？ご見学お待ちしております！



代表：関野 准貴 (法学部2年) | Email:bridge.univ.tohoku@gmail.com

27 一般社団法人 ワカツク



キャリア・若者 学外

学生の「何かしたい」想いを、震災復興や課題解決に取り組む企業・団体に繋ぎ、サポートしています。魅力的な地域企業や社会人を取材・発信する「いぐする仙台」、学生団体の活動を紹介する「東北1000プロジェクト」など、独自に運営する事業もあります。ボランティアや課外活動を自身のキャリアに繋げたい方はぜひ相談を！



代表理事：渡辺 一馬 | Email:musubaru@wakatsuku.jp TEL:022-721-6180

ツアー・イベント情報

宮 城

2019年度荒浜新歓ツアー 4月7日(日)

主催: SCRUM震災伝承部 共催: 課外・ボランティア活動支援センター

地域づくり体験ツアー(石巻市雄勝町波板) 4月13日(土)~14日(日)

主催: 東北大学SCRUM 地域共創部 共催: 東北大学課外・ボランティア活動支援センター

仙台市の被災地を巡るツアー

4月13日、20日、27日、28日、29日、30日、5月1日、2日、3日、4日、5日、6日、(11日、12日)

主催: 震災復興・地域支援サークルReRoots

被災地荒浜を体感するスタディ&ボランティアツアー 4月14日(日)、4月21日(日)

主催: 学生団体「海辺のたからもの」

たなぼた 春のボランティア体験

4月14日(日)、4月27日(土) (いずれも終日)

主催: 東北大学ボランティアサークルたなぼた

日帰りボランティアツアーin宮城石巻

4月21日(日)

主催: 東北大学インクストーンズ 共催: 東北大学課外・ボランティア活動支援センター

新歓宮城石巻ボランティアツアー

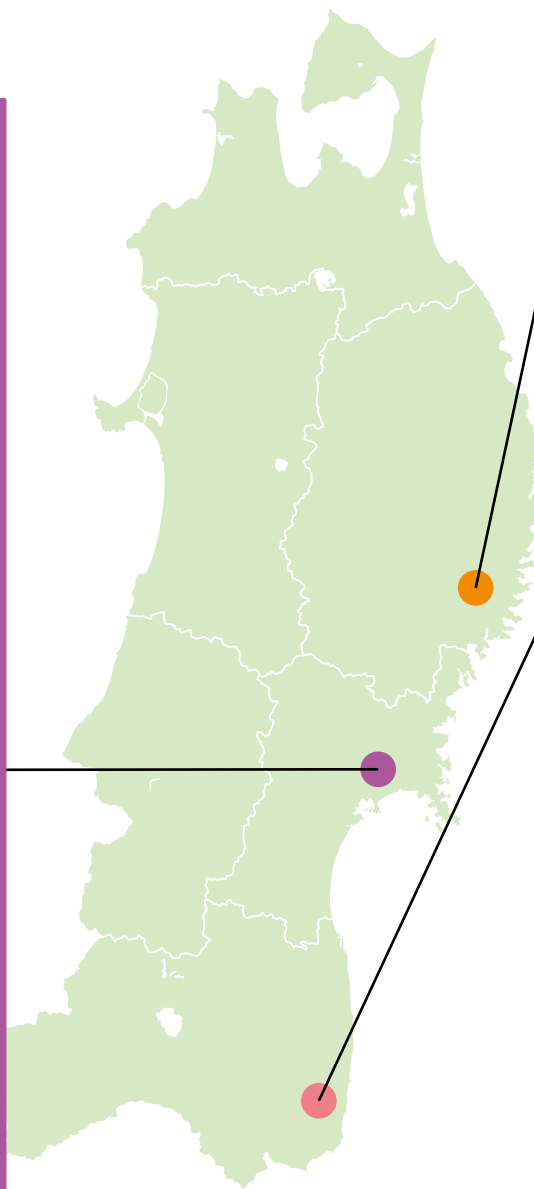
4月27日(土)~28日(日)

主催: 東北大学インクストーンズ 共催: 東北大学課外・ボランティア活動支援センター

Arahama study tour

5月6日(月)

主催: 東北大学SCRUM 国際部 共催: 課外・ボランティア活動支援センター



岩 手

陸前高田ボランティアツアー

4月27日(土)~28日(日)

主催: 東北大学陸前高田応援サークル ほかほか、
課外・ボランティア活動支援センター

福 島

福島県浜通り縦断ツアー 4月13日(土)

主催: 東北大学福興Youth

共催: 東北大学課外・ボランティア活動支援センター

福島県いわき市ボランティアツアーin GW 4月29日(月)~30日(火)

主催: 東北大学福興Youth

共催: 東北大学課外・ボランティア活動支援センター

福島県いわき市薄磯地区ボランティアツアー 5月3日(金)~4日(土)

主催: 東北大学福興Youth

共催: 東北大学課外・ボランティア活動支援センター

それ以外の活動

【ミーティング体験・説明会】

SCRUM国際部 新歓説明会・ワークショップ

4月18日(木)18:00~・4月24日(水)18:00~

主催: 東北大学SCRUM 国際部

ボランティアミーティングへの体験参加

4月14日(日)、5月3日(金)

主催: 反貧困みやぎネットワーク

【その他】

映画を通して学ぶ -フードロスって何?- 4月16日(火)

主催: アイセック

映画を通して学ぶ -FTって何?- 4月18日(木)

主催: アイセック



イベントの詳細内容や申込方法は課外・ボランティア活動支援センター
ボランティア支援学生スタッフSCRUM のホームページをご確認ください。
(<https://scrum-tohoku-univ.jimdo.com/>)